



## 年間第 26 主日 (マルコ 9:38-43,45,47-48)

私たちと違って、違いを豊かさに

「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。」弟子のヨハネの言葉で思い出したことがあるので、今週はこの部分を取り上げてみたいと思います。

夏休みにミサとラジオ体操に来た子供たち、賞品をあげると言っていたのはもう忘れていていると思います。司祭団のソフトボール大会に五島の福江に行って、そこでホームランを含む5打数4安打の活躍をして、それから実家の鯛ノ浦に行くために上五島に移動し、そこで、上五島にしか売っていない、お目当ての賞品を買おうと思っていたのです。

ところがソフトボールに行く前日、広島カープの優勝間違いなしと思って野球観戦に行ったマツダスタジアムからの帰りにお葬式が入って、実家で一泊したあと賞品を買う予定だったのがすぐに帰らなければならなくなって、まだ買い物できていないのです。これから、実家にいる家族と連絡を取りながら必ず賞品を準備するので、もう少し待ってください。

さて私が取り上げた箇所についてですが、かつてフィリピンであなかったミサと、韓国明洞教会であなかったミサ、どちらとも同じ光景を目にしました。それは、聖体拝領のときのことです。私たちが見る聖体拝領の光景は、司祭が聖体を授けている姿、まあせいぜい大司教様と司祭たちが聖体を授ける姿を想像すると思います。ところがフィリピンと明洞大聖堂で見た光景は違っていたのです。

フィリピンで参加したミサは、今から20年も前のことですが、屋根だけ取り付けられた聖堂で、野外ミサのような場所でした。2000人はいたかもしれません。そこで聖体拝領が始まる時に、何人かの信徒がうやうやしく祭壇に近づいてきて、聖体の入ったチボリウムという容器を受け取り、所定の場所に移動していきました。「聖体奉仕者」という任務を受けた人が、聖体を授けるお手伝いをしていたわけです。

明洞では、平日の朝ミサに参加しました。そこで目にしたのはもう一步踏み込んだ光景でした。その日ミサをささげていた司祭の隣で、シスターが、聖体を授けていたのです。教会法典によると、聖体奉仕者と、修道院の院長シスターは、聖体を授けることができるとされています。ただ私の理解では、修道院の院長が授けるのは修道院内のシスターに授ける権限があると思っていました。ですから平日のミサで、一般信徒にシスターが聖体を授けている姿は、私にとってはちょっとした驚きでした。

男性の信徒で、必要な教育を受け、聖体奉仕者に任命された人が聖体を授けるのは、私の頭の中で受け入れることができましたが、正直、シスターが平日のミサで聖体拝領の手伝いをしているのはすんなり受け入れることができませんでした。弟子のヨハネのように「やめさせよう

としました」そこまでは思いませんでした、これってオッケーなのかなあというのは正直思ったのでした。

イエスが弟子のヨハネに示した答えは、今日私にも示されていると思います。「やめさせてはならない。」(9・39)「わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。」(9・40)

残念ながら、私たち人間の心はイエスの広い心からすればあまりに狭すぎます。初めて見る光景を、自分たちが見たことのある光景から外れているというだけで「これはいけないことだ」と思ってしまいます。神の栄光のために使えるものは惜しみなく使うべきなのに、私たちの頑なな心が邪魔をするのです。道具にしても、人にしても、神の栄光のために使えるものに制限をかけるよりは、上手に活用すべきなのだ、今回あらためて思いました。

さて田平教会では、10月の典礼に、奉仕者がサンダルを履いて典礼奉仕してもらいたいと思っています。目的は、12月2日の平戸ザビエル祭で、私たちが典礼奉仕に用いたサンダルを奉納するためです。フランシスコ・ザビエルは質素な生活をしながら宣教活動に邁進しました。サンダルを履きつぶすほど歩いて宣教しました。私たちも、ザビエルのようにサンダルを履いて、履きつぶすまではいきませんが、宣教と奉仕活動に使われたサンダルを神様にささげたいと思っています。

ひょっとしたら、私たちの行動を違う教会から来た人は奇異に思うかもしれません。聖堂内でサンダル履きとは何事かと思うかもしれない。ですが私たちは信念を持って取り組みます。この世のものを、神への奉仕のために用い、おささげするのだと。10月の聖母行列、ミサの先唱、聖書朗読、献金集め、奉納など、できるだけたくさんの方が典礼委員会で用意したサンダルを履いてミサに参加してください。

「やめさせようとした。」「やめさせてはならない。」本当は神の栄光のために使えるものでも、私たちの凝り固まった考えでは「とんでもない」と思えるかもしれません。一歩でも二歩でもイエスの思いに近づくために、私たちが自分にかけている制約を取り払いましょう。もっとたくさんの人や物に、神の栄光のためになる場を与えてあげましょう。そうすることで私たちは、イエスの良い弟子であり続けることができます。